

研究室紹介

佐賀県農業試験研究センター 病虫害・有機農業研究担当

佐賀県農業試験研究センターは、佐賀の南部に位置し、病虫害に関する試験研究は当試験場が設立された明治33年当初から行われてきました。佐賀平野では古くから米作りが盛んで、設立当初から、時代に応じた稲作病虫害の研究課題に取り組み、全国に先駆けて行われた防除暦と発生予察情報に従った適期防除の実践により、病虫害防除の点でも米の増産に大きく貢献し、昭和40年と41年の単位面積当たりの収量は2年連続で日本一となりました。

また、米の減反政策を受け野菜の振興が始まったことから、昭和50年代以降は野菜の研究のウエイトが高まり、露地野菜ではタマネギ、施設野菜では、イチゴ、ナス、アスパラガス、キュウリ等を中心に病虫害の課題に取り組んできました。

近年では、以下の研究課題を中心に取り組んでいます。

1 タマネギべと病

平成20年代に入り、タマネギべと病が常発するようになったことから、べと病対策の課題が始まり、平成28年の過去にない未曾有の大発生を受け、平成28年10月～令和元年9月の3年間、佐賀県、農研機構九沖農研、佐賀大学、兵庫県でコンソーシアムを組織し、国の事業による共同研究が行われました。当研究室は、事業の中核機関として携わり、予防散布を中心とした新たな防除体系、土壌中での発生生態に関する成果等を示したところです。本年8月20日には成果発表会が行われ、全国より百数十名の研究者、関係者の方々が参加され、意見



病虫害・有機農業研究担当のメンバー

交換を行ったところです。今後も、さらなる防除技術の改良と生態解明の構築を目指し、研究を継続することとしています。

2 薬剤抵抗性問題に対する対応

本研究室では薬剤抵抗性の問題とその対策に精力的に取り組む、多くの病虫害について、薬剤抵抗性の確認と代替防除技術の提示を行ってきました。特に、病害関係については、薬剤耐性菌研究会と連携しながら、いち早く生産現場への情報提供などを行ってきました。

本県で確認された主な薬剤抵抗性病害虫
(普通作、野菜)

イネ：いもち病、トビイロウンカ

イチゴ：炭疽病、ナミハダニ

タマネギ：べと病

共通：各種灰色かび病、ハダニ類、アザミウマ類、コナジラミ類

3 減農薬、IPMの取り組み

食の安全安心、減農薬、IPM防除技術に対する関心の高まりから、平成16～22年にかけて、各種施設野菜において、佐賀県特別栽培農産物の認証に対応できる防除体系の開発に関する研究に取り組み、イチゴ、キュウリ、ナス、アスパラガス、小ネギについては認証に対応できる減農薬防除体系をホームページ上で提示し、推進を行っています。

ほかにも天敵昆虫の導入、フェロモン資材による交信攪乱、UVカットフィルム利用等の研究も実施しており、最近では、キュウリとアスパラガスを中心に、カブリダニ類やタバコカスミカメの利用についての研究を行っています。

また、平成28年度には、同じ環境農業部であった有機農業研究担当と統合されたことから、現在の「病虫害・有機農業研究担当」の名称となり、有機農業に関する研究にも取り組んでいます。

これまで当研究室の先輩方は、常に現場に貢献できる普及技術の開発、提案を念頭に置き、日々の研究に携わって来られました。先輩方の志を引継ぎ、これからも佐賀の農業振興に貢献できる技術開発に取り組んでいきたいと思っています。

(係長 井手洋一)